



西岳 林道コース カラマツの新緑の道

5月11日 八ヶ岳の高峰、西岳(2398m)は、八ヶ岳の八つの峰の中では多分一番なじみの薄い峰(?)のよ

またまた長いあいだ御無沙汰してしまいました。小淵沢は新緑の季節を過ぎて山々もすっかり緑を濃くしています。深かった雪も甲斐駒や鳳凰の谷筋にわずかに残るくらいになっています。編笠、権現は雪が消えました。登山口の観音平はレングツツジが終わり、もうしばらくするとシヤクナゲの季節を迎えます。家のまわりではカツコウやキジ、ウグイスなどが盛んにのどを競っています。梅雨で雨の日が多いですが、雨に洗われた山は緑が目に見え、贅沢な梅雨を過ごす毎日です。今回はすこし前になってしまったのですが、5月12日にいつ八ヶ岳のひとつ、西岳の報告をします。

うで、編笠山、権現岳を回るついでに、青年小屋に荷物を置いてピストンする人が多く、西岳だけを目指す人はほとんどいないようです。今回は富士見町の広原林道から不動清水を経て西岳山頂を目指しました。私たちの家を午前10時に出発、広原林道の終点まで車で20分ほど(途中道を探してうろうろしたので実際は30分近くかかりました)、午前10時35分歩きはじめました。最初登山口がよくわからず、疑心暗鬼でしたが、林道を20分くらい歩くと、編笠山に向かう道との分岐の道標があつて一安心。

登山口の目立った道標がないのでわかりづらい。小淵沢から美濃戸方面に走って、富士見高原スキー場を過ぎ、しばらく行つた右手にメイプルヒルズというレストランやお店の一角があり、そこを入つていくと、それが広原林道でした。公園道路付近の別荘地帯の舗装道路を5〜6分進むとじやり道で「広原林道」の標識があり、その奥にゲートがありました。車を5〜6台止めるスペースがあり、ゲートは鍵がかかっていたのでそこからゲートをくぐつて林道を歩きだしました。「この道でいいのかなあ」と夫と二人で言い合いながら歩きはじめましたが、すぐに芽吹いたばかりのカラマツの優しく淡い緑に心が洗われてすっきりうきうき気分。「黄色のレースのカーテンをひいたよう・・・」などと、一人であつたりと悦に入っていました。20分ほど林道を歩くと編笠山への道との分岐に出ました。そこから西岳へ左に折れてすぐに不動清水がありました。



見晴らしはありませんが、比較的広い広場で中央にちよろちよろの清水が湧いてます。シジュウカラ、コガラ、ヒガラなどがその清水でさかんに水浴びをしていて、しばしの休憩も楽しいものでした。トレイルもなんとか我慢できるキレイさでしたので、小休止に最適。ここからも編笠山へ向かう道が右手の樹林の中へ延びていました。清水の背後の4本の大きなシラビソ(?)の脇の西岳への登りに入りました。30分ほど進むとまた林道に出ました。すこし展望が開けていて南アルプスや眼下の町並みが光っています。特製ブレランデーケーキで一息入れ、林道を横切つて再び樹林の中へ入ります。このあたりはカラマツの樹林でまだやつと芽吹きはじめといったところ。カラマツの芽は近くで見るとほん心とに可愛いですね。近くに



はタラノメもまだ新芽は固い皮を被っていました。12時25分、リンドウ・編笠

とでした。作業で少し登山道から外れると、確かに掘り起こしたらしい痕跡がいくつも見られました。ほんとは残念なことですが。

悪戦苦闘 新米オーナー

6月12日に小淵沢の山岳会の人達と一緒に観音平周辺と編笠山登山道の押手川までの道の整備、清掃、新しい道標立て、押手川の古くなったトイレの撤去作業に参加しました。古くからこの道を歩いてきた小淵沢の方々、青年小屋の竹内さんに色々お話を伺うことができました。編笠山山頂とその下の道標は小屋の青年が担ぎ上げ、押手川、雲海観音平上の展望台の道標は私たちが立てました。編笠山に登つて新しい道標を見たら、ああ風路さんたちが立てたんだな、と思い出してくださいね。



作業中の雑談の中で多く出たのが、山の草や木を掘つて持つていっ

に出ました。この林道を横切つたところが比較的広い笹原で展望も開けています。振り返ると甲斐駒、鳳凰、眼下に小淵沢や富士見の町が霞んで、また右手には編笠山の稜線がゆつたりと延びています。ここから上はしばらく北八ヶ岳のようなシラビソの樹林が続きます。このあたり、あち

徳島から 嬉しいお客様

6月下旬に遠く徳島からハイキングクラブの方々か訪ねてくださいました。3日間、生憎の梅雨空でしたが、編笠山、日向山を歩かれました。3日間も一緒にすると、もうずっと昔からの友達のように、まだ行つたことのない四国の山々の話に花が咲きました。お土産にいただいた徳島名産のスタチの香りがいまでも心に残っています。



この部分で土から掘り出されて削り取られています。最初は人が葉か何かに使う(裏へ続く)

(表から続く)
 ために削ったのかと思つたくらい、きれいにつるつるになっています。後日、編笠山の青年小屋の竹内さんと一緒に歩いていただいたとき、「あれは多分本州鹿ですよ」と教えていただきました。餌の少ない冬の鹿たちの生きる厳しさを感じさせられました。
 しばらく登るとシラビソの

樹林も背丈が短くなって、シクナゲが混じり、だんだん多くなってきました。普段は木々の中に隠れているシジュウカラ、コガラ、ヒガラなどがまるで私たちを案内するかのようになり、さかんに飛び交っていました。1時10分、あと30分の道標に励まされて登ります。山頂直下、樹林とゴロゴロの岩と砂の広場が交互に現れ、

まだすこし日陰に残っていた雪が凍っていて、すこし歩きにくい。
白く光る水田
甲斐駒の向こうに仙丈
 1時55分、やっと山頂に立ちました。比較的広い山頂は編笠山と似たようなごろごろした岩と石の頂でした。でも展望は360度、最高の眺め



でした。隣の編笠山はもう山頂まで緑に埋まり、権現岳との鞍部に青年小屋が小さく見えます。権現岳はまだ長い雪の季節から目覚めていないかのように、白く険しい山容を誇っていました。さらに赤岳阿弥陀と八ヶ岳の主峰が迫っています。この方向からほとんど眺めてたことのない八ヶ岳の姿がとても新鮮に感じられました。
 これまで登ってきた南側は甲斐駒、鳳凰とその向こうに私たちの家からでは甲斐駒の影に隠れて見えない仙丈岳がどっしりと構え、北岳、間ノ岳なども大きな山塊を見せてくれました。釜無川沿いはちようど水田の田植えの時期で水を張っていたので、それが白く光り輝いてとても綺麗でした。

シクナゲの見頃
7月中旬です

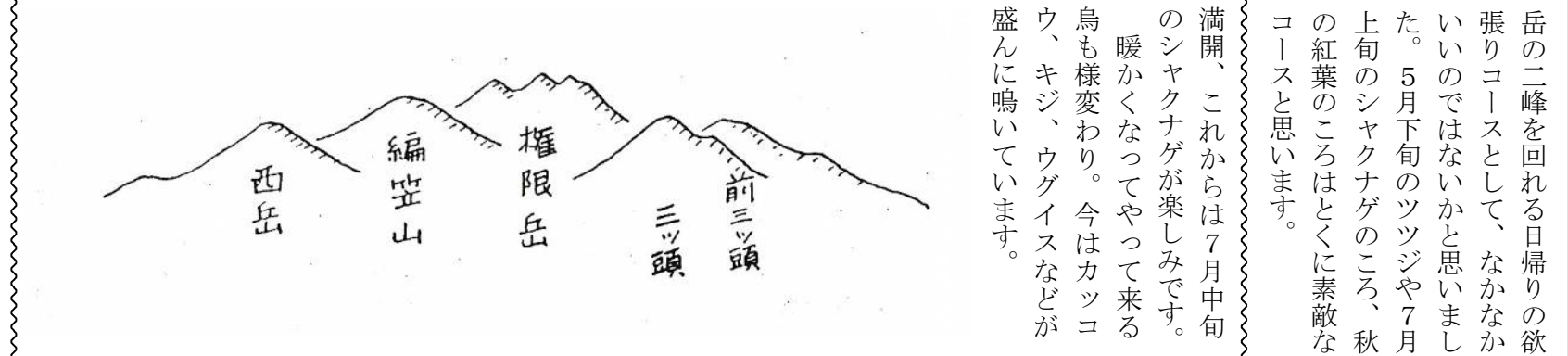
ひとしきり撮影会をして、第二の目的・お弁当。最近、グルメ山行の掛け声倒れ感がある、皆さんに報告できそうな雲上ランチではありません。おにぎり、玉子焼き、ポテトサラダ、野菜の漬物、肉だんご、スープがわりのインスタントラーメンでした。もちろんビールをしっかりとっていったのはいうまでもありません。

2時35分、山頂をたつて登ってきた道を引き返し、4時50分、ゲートに着きました。このコースは朝早くたてば、西岳から青年小屋、編笠山をへて戻ってくるコースが、八ヶ

前回の約束した私たちの家の北側にそびえる八ヶ岳の風景を紹介しましょう。家の前の道を20mほど歩くと正面に八ヶ岳が見えます。一番左が西岳、その右側に編笠山と三ツ頭を左右に配してその奥正面に権現岳がそびえています。ここから見上げる八ヶ岳は西岳、編笠山、三ツ頭の緩やかな優しい稜線とごつごつした権現岳の山頂付近の景観のコントラスト、とくに5月6月、最後まで山頂に雪を残す権現岳と緑がどんどん山頂に登っていく編笠山や三ツ頭の際立った対比にしばし目を奪われることが少なくありません。ことに夕日を浴び茜色に染まった八ヶ岳が実に素敵です。

今は権現岳も山頂付近まですっかり濃い緑に覆われています。6月の半ば、観音平付近のレンゲツツジが

岳の二峰を回れる日帰りの欲張りコースとして、なかなかいいのではないかと思います。5月下旬のツツジや7月上旬のシクナゲのころ、秋の紅葉のころはとくに素敵なおコースと思います。



暖かくなってやって来る鳥も様変わり。今はカッコウ、キジ、ウグイスなどが盛んに鳴いています。

満開、これからは7月中旬のシクナゲが楽しみです。

満開、これからは7月中旬のシクナゲが楽しみです。